

第5章 ライフステージ別の評価指標一覧



ライフステージ区分	評価指標	指標の方向	基準値 (R4年度)	目標値
基本目標				
1 妊婦・胎児	妊婦歯科健診の受診率	↑	29.5%	70.0%
マイナス1歳から始まる歯と口の健康づくりとして、妊娠期から胎児と妊婦の歯と口腔の健康づくりに関する意識の向上を図ります。	妊娠中に歯科健診又は歯科治療した母親の割合	↑	59.6%	70.0%
	妊婦歯科健診受診者のうち、むし歯がある妊婦の割合	↓	89.1%	70.0%
	2歳児で毎日仕上げ磨きをする児の割合	↑	89.1%	98.0%
2 乳児・幼児	3歳児でむし歯がない児の割合	↑	95.0%	97.0%
むし歯予防を推進及び将来に向けた丈夫な歯と口腔の形成を促し、歯と口腔の健康づくりの望ましい習慣の定着を図ります。	5歳児でむし歯がない児の割合	↑	79.4%	85.0%
	3 児童・生徒	12歳でむし歯のない者の割合	↑	86.6%
むし歯予防を推進し、将来に向けた丈夫な歯と口腔の形成を促し、「生涯自分の歯を自分で守る」という健康の意識を育てます。	小学生で歯肉の状態が要観察の者の割合	↓	11.9%	10.0%
	中学生で歯肉の状態が要観察の者の割合	↓	13.3%	10.0%
4 成人	20歳から40歳までの歯周病検診受診者の割合	↑	5.3%	10.0%
歯と口腔の健康が心身の健康に関係することやむし歯、歯周病等歯科疾患の予防、歯の喪失防止の重要性を周知し、歯と口腔の健康づくりに対する意識の向上と生活習慣の改善を図ります。	要指導・要精密検査に該当する者の割合	↓	88.7%	85.0%
	50歳以上における咀嚼く良好者の割合	↑	65.0%	70.0%
	40歳以上における自分の歯が19本以下の者の割合	↓	16.3%	5.0%
	過去1年間で歯科を受診した者の割合	↑	41.2%	50.0%
	週に1回以上鏡を使用して歯や口腔の状態を観察する者の割合	↑	41.6%	50.0%
	60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合	↑	95.0%	100.0%
	歯周病検診で歯周病(歯周ポケット1・2)に該当する者の割合	↓	55.0%	40.0%
	歯周病検診でむし歯(未処置歯)に該当する者の割合	↓	37.3%	30.0%
たばこを吸っていると歯周病になりやすいことを知っている者の割合	↑	58.4%	60.0%	
5 高齢者	後期高齢者歯科健診の受診率	↑	11.5%	20.0%
オーラルフレイルを防ぎ、歯と口腔の健康づくりが心身の健康づくりにつながることを周知し、意識の向上及び生活習慣の改善を図ります。	過去1年間で歯科を受診した者の割合	↑	44.1%	50.0%
	後期高齢者歯科健診で要治療に該当する者の割合	↓	73.6%	68.0%
	80歳で20本以上の自分の歯を有する者の割合	↑	64.1%	85.0%
6 要介護者、障がい児・者	要支援者の歯科検診受診率	↑	13.0%	100.0%
歯と口腔内を清潔に保ち、むし歯や歯周病を早期に発見し治療に結び付けることで、口腔機能を維持・向上し、疾病の発症リスクの低減や要介護状態等の重症化防止を図ります。	通所サービス事業所における口腔ケアの実施割合(口腔機能向上加算の有無を問わない)	↑	84.8% (R5年度)	100.0%
	日中活動系サービス事業所の歯科健診を行う事業所の数	↑	5か所	11か所